

岡山県金融経済動向

1. 概況

- 県内景気は、持ち直しつつある。
- すなわち、最終需要面をみると、輸出は、なお低水準ながらも、一部に持ち直しの動きがみられている。また、個人消費は、底打ちの兆しがみられている。一方、住宅投資、設備投資、公共投資は、減少している。

県内主要製造業の生産は、低水準で横ばい圏内の動きとなっている。

雇用・所得環境をみると、依然として厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの兆しが窺われている。

- こうした中、地場企業の収益は、各種政策効果による下支えや新興国需要の持ち直し、企業のコスト削減に向けた取り組みなどを背景に持ち直しつつあり、景況感も下げ止まっている。

2. 実体経済

(1) 個人消費

- 個人消費は、底打ちの兆しがみられている。

すなわち、4月の販売動向をみると、百貨店売上高は、衣料品や身の回り品などの一部に動意がみられており、前年比マイナス幅が縮小した。また、乗用車販売では、自動車減税対象車の販売が好調であったため、前年を大きく上回った。家電販売では、エコポイント対象商品を中心に、持ち直しの動きがみられている。一方、スーパー売上高は、食料品や衣料品を中心に、前年を下回った。

この間、旅行取扱高は、国内旅行を中心に、前年を下回っており、主要観光地への入り込みも、前年を下回っている。

(2) 設備投資

- 県内企業の設備投資は、減少している。

すなわち、3月短観調査における21年度の設備投資計画をみると、製造業では、素材業種が石油・石炭製品、化学を中心に増加計画となっているものの、加工業種が輸送用機械、電気機械を中心に大幅な減少計画となっているため、全体でも前年を下回る計画となっている。また、非製造業では、電気・ガス、小売、運輸・郵便などを中心に、前年を3割弱下回る計画となっている。この結果、全産業ベースでは、前年を1割強下回る計画となっている。

また、22年度の設備投資計画をみると、製造業では、加工業種が輸送用機械を中心に大幅な増加計画となっているものの、素材業種が鉄鋼、石油・石炭製品、化学を中心に大幅な減少計画となっているため、全体でも前年を4割強下回る計画となっている。また、非製造業でも、対事業所サービス、対個人サービスを中心に、前年を2割弱下回る計画となっている。この結果、全産業ベースでは、前年を3割強下回る計画となっている。

建設投資の先行指標である着工建築物床面積（非居住用<1~3月>）は、前年を下回った。

(3) 住宅投資

- 住宅投資は、減少している。

3月の県内新設住宅着工戸数をみると、貸家は前年を下回ったものの、持家、マンションが前年を上回ったため、全体でも前年を上回った。

(4) 公共投資

- 公共投資は、減少している。

発注の動きを示す県内公共工事保証請負額をみると、4月は、「その他の公共的団体」が前年を上回ったものの、「国」、「市町村」、「県」、「独立行政法人等」で前年を下回ったため、全体でも前年を下回った。

(5) 輸 出

- 輸出は、なお低水準ながらも、一部に持ち直しの動きがみられている。

4月の県内輸出（通関実績）をみると、アジア向けを中心に前年を上回った。

(6) 生産・出荷・在庫

- 2月の県内鉱工業生産指数(直近計数)の季調済前月比は、食料品、鉄鋼、電気機械を中心に上昇したことから、全体では3か月振りの上昇となった。
この間、出荷指数(季調済前月比)は、鉄鋼、化学、輸送機械を中心に低下したことから、全体では2か月振りの低下となった。また、在庫指数(前年同月比)は、石油・石炭製品、化学、繊維を中心に低下したことから、全体では15か月連続の低下となった。
- 県内主要製造業の最近の生産動向(10業種、付表参照)をみると、造船は、豊富な受注残を背景に、高操業を継続している。また、鉄鋼、耐火物、電気機械は、生産が持ち直しており、石油精製、農機具は、底堅く推移している。この間、石油化学は、一部の先で実施していた大規模定期修理が終了したため、高めの生産水準に復帰している。一方、自動車は、海外需要の伸び悩みなどを背景に、足踏みの状態となっている。また、工作機械は、自動車関連需要の落ち込みなどを背景に、極めて低水準の生産を続けているほか、繊維も、低水準の生産が続いている。

(7) 雇用・所得

- 雇用者所得は、依然として厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの兆しが窺われている。
労働需給面をみると、4月の有効求人倍率は、引き続き低水準で推移している。一方、3月の所定外労働時間は、前年を上回っている。雇用面をみると、3月の常用労働者数は、前年を下回っている。この間、4月の解雇者数は落ち着きをみせているものの、雇用保険受給者数は高めの水準となっている。
賃金面をみると、3月の一人当たり現金給与総額は、前年を上回っている。

(8) 物 価

- 4月の岡山市消費者物価指数(平成17年基準、生鮮食品を除くベース)は、教育、光熱・水道などを中心に前年を下回った。

(9) 企業倒産

- 4月の県内企業倒産（東京商工リサーチ調べ、負債総額10百万円以上）をみると、倒産件数、負債総額ともに前年を下回った。

3. 金 融

(1) 実質預金等

- 4月の県内実質預金をみると、全体の伸び率は前月比横ばいとなった。
なお、地元10行庫の預かり資産をみると、投資信託の残高が前年比プラスとなっているほか、保険商品は引き続き高い伸び率となっている。

(2) 貸 出

- 4月の県内貸出をみると、全体では前年比マイナスとなった。

(3) 貸出約定平均金利

- 4月の新規貸出約定平均金利（総合ベース）は前月比上昇した。一方、ストック金利（同）は前月比低下した。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707 岡山市北区丸の内1-6-1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086-227-5111（代表）

FAX 086-227-6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

主 要 製 造 業 の 生 産 動 向

業 種	足 も と の 動 向
自 動 車	海外需要の伸び悩みなどを背景に、足踏みの状態となっている。 資源国・新興国向けなどの海外需要が伸び悩んでいるほか、国内向け軽自動車の需要も低迷しているため、生産はここにきて足踏みの状態となっている。また、部品メーカーなどの県内関連先についても、生産の持ち直しテンポは緩やかになっている。
造 船	豊富な受注残を背景に、高操業が続いている。 造船部門では、外航船を中心に豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。また、非造船部門では、中・小型船舶向けディーゼルエンジンの一部にキャンセルや納期の延期が発生しているものの、生産水準は依然として高めの状態となっている。
石油精製	堅調なガソリン需要を背景に、底堅い生産が続いている。 製品別の需要動向をみると、ガソリンは、ETC 搭載車を対象とした高速道路料金値下げの影響もあり、底堅く推移している。一方、軽油は、物流の停滞から内外需要が不振となっている。また、灯油留分は、灯油、ジェット燃料とともに弱含みとなっている。重油は、燃料転換の進捗などから減少傾向にある。
石油化学	一部の先で実施していた大規模定期修理が終了したため、高めの生産水準に復帰している。 製品別の需要動向をみると、プロピレン、スチレンモノマー、ポリスチレンは、中国向けを中心に好調に推移している。また、ポリエチレンについても、在庫調整の進捗などから高めの生産となっている。
鉄 鋼	粗鋼生産量は、自動車向け薄板類の生産持ち直しを背景に、持ち直している。 製品別の動向をみると、厚板類は、造船メーカー向けを中心に需要が堅調に推移しており、高水準の生産を続けている。また、薄板類は、自動車向けや輸出向けを中心に持ち直している。一方、棒鋼類は、自動車向けは持ち直しつつあるものの、建設向けが低迷しているため、全体では低水準の生産に止まっている。形鋼類も、建設需要が低迷しているため、依然として低水準の生産を続けている。
耐 火 物	鉄鋼向け需要の持ち直しを背景に、生産は持ち直している。 主要顧客である鉄鋼メーカーの生産が持ち直しているため、県内耐火物メーカーの生産も持ち直している。
電気機械	旺盛な海外需要などを背景に、生産は持ち直している。 製品別にみると、電子部品は、中国を中心とする旺盛な海外需要などを背景に、高めの生産となっている。一方、スイッチは、受注競争が激化していることなどから、生産が伸び悩んでいる。この間、デジタルビデオカメラは、欧州や北米など海外需要の低迷が続いているため、弱めの動きとなっている。
織 維	全体としては低水準の生産が続いている。 製品別にみると、綿織物、合繊織物、ジーンズは、安価輸入品との競合などから、生産量は減少している。また、作業服は、末端需要の低迷などを背景に、全体として生産量は減少傾向となっている。一方、学生服は、少子化の影響によって市場は長期的には縮小傾向にあるものの、足もとの需要は安定しており、生産水準は横ばいとなっている。
工作機械	自動車関連需要の落ち込みなどを背景に、極めて低水準の生産が続いている。 NC旋盤、MC（マシニングセンター）は、海外向けのスポット受注を獲得する動きが一部にみられているものの、主力の自動車関連、一般機械関連の新規受注は引き続き低迷しており、極めて低水準の生産が続いている。
農 機 具	底堅く推移している。 製品別にみると、コンバインは、適正在庫を維持しているほか、末端需要に変動がみられないため、底堅く推移している。また、携帯用刈払機は、夏場の需要期に向けた作り込みなどを背景に、生産は持ち直し傾向となっている。